



2023BAアワード講演

プロジェクトにおけるビジネスアナリシス適用

株式会社エル・ティー・エス

2024/02/21

自己紹介

株式会社エル・ティー・エス
ビジネスアナリスト

さかぐち さおり

坂口 沙織

SAKAGUCHI SAORI



- ◆ **略歴** #アジャイル #ビジネスアナリシス #プログラムを書く以外のことは全部やる
 - 基幹システム導入PJを中心に、業務分析・システム化要件の抽出・受入テストシナリオの作成などIT導入プロジェクトにおけるユーザ側タスクの支援に一貫して携わるビジネスアナリスト。
 - 構想策定から導入フェーズ・導入後の運用安定化支援まで、システム導入のライフサイクル全てに関わっている。
 - WF、Agileどちらのプロジェクトも経験。
 - Scrum Alliance認定スクラムマスター (CSM)
 - ScrumInc.認定スクラムマスター (RSM)
- ◆ **主なプロジェクト経験**
 - 総合商社: 基幹周辺システム要件定義～結合テストの支援
 - 卸売: 次期基幹システム構想策定支援
 - IT企業: ローコード開発ツール (Outsystems) による案件管理システム導入 (アジャイル開発)
 - 建設コンサル: 新基幹システム (SAP) 稼働後の運用支援 (プロジェクト管理全般)
 - 建設コンサル: 基幹システム (SAP) における追加開発支援 (要件定義～UAT)
 - 建設コンサル: グループ共通会計システム刷新に伴う次期システムアーキテクチャ検討
 - 建設コンサル: 次期基幹システムグランドデザイン策定支援
 - 建設コンサル: 基幹システム (SAP) 導入後の経理業務安定化支援
 - 金属系商社: ローコード開発ツール (Kintone) による案件管理システム導入 (アジャイル開発)
 - IT系商社: 次期基幹システム構想策定～導入支援 (GRANDIT)
 - 製造業: ローコード開発ツール (Outsystems) によるScope3CO2/GHG排出量収集アプリ構築 (アジャイル開発) 他

今日お話しすること

1. 活動概要(5分)
2. 活動を振り返ってのポイント(8分)
3. 私がアジャイルビジネスアナリシスに取り組む理由と今後の展望(10分)

活動概要

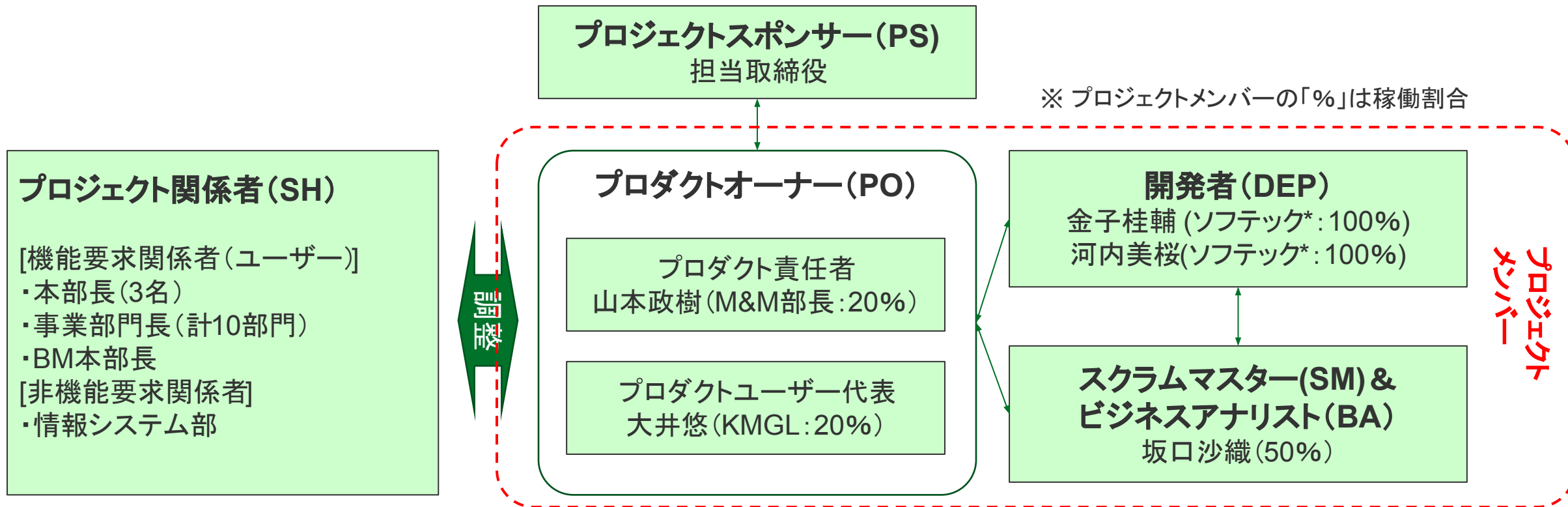
プロジェクト概要

プロジェクトの概要は以下の通り。

プロジェクト名称	プロジェクト管理システム(mio)導入
プロジェクトの背景	<ul style="list-style-type: none">社員数の拡大に伴い、プロジェクト関連の手続きの実施状況を一元管理することが困難になっていた。コロナ禍で出社が難しい状況の中、早急にデジタル化を進める必要があった。
プロジェクトの目的	<ul style="list-style-type: none">複数の契約の集合単位である“プロジェクト”の管理システム構築ローコード開発ツールの検証アジャイル開発活用ノウハウの習得
対象機能	<ul style="list-style-type: none">プロジェクト情報管理機能プロジェクト開始/終了手続き管理機能
進め方	<ul style="list-style-type: none">ミニマムな要件から着手して、今後増えていく要件に柔軟に対応できる＝育てていける基盤であることが求められる。 ⇒ローコード開発ツールを用いて自社開発で構築する。 ⇒アジャイル開発方法論を用いて漸進的に開発を進める。

プロジェクト体制

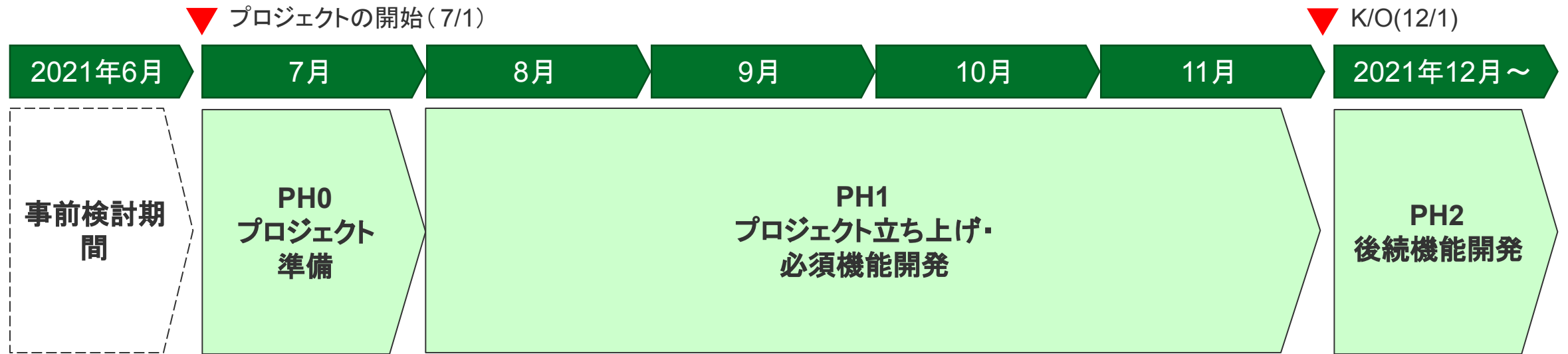
チーム内にビジネスアナリストを置く体制でプロジェクトを進めた。



*プロジェクト当時の社名。現在は「LTSソフトウェアテクノロジー」に名称変更

プロジェクトスケジュール

必須機能開発までのプロジェクトスケジュールとフェーズは以下の通り。



1スプリントのスケジュール

1Sprint=1週間とし、ほぼスクラムガイド通りのスケジュール+週次で勉強会を開催

Sprint1												
DAY1		DAY2		DAY3		DAY4		DAY5		DAY6		
水		木		金		月		火		水		
開発チーム	PO	開発チーム	PO	開発チーム	PO	開発チーム	PO	開発チーム	PO	開発チーム	PO	
9:00	開発	開発		開発		開発		開発		開発		
9:30												
10:00		朝会		朝会		朝会		朝会		朝会		
10:30		開発		開発		開発		開発		開発		
11:00												
11:30												
12:00		Lunch		Lunch		Lunch		Lunch		Lunch		
12:30												
13:00		開発		開発		開発		開発		スプリントレビュー		
13:30												
14:00	バックログリファインメント								デプロイ			
14:30									ふりかえり			
15:00	スプリント 計画1			勉強会								
15:30												
16:00												
16:30	スプリント											
17:00	計画2											
17:30												

活動を振り返ってのポイント

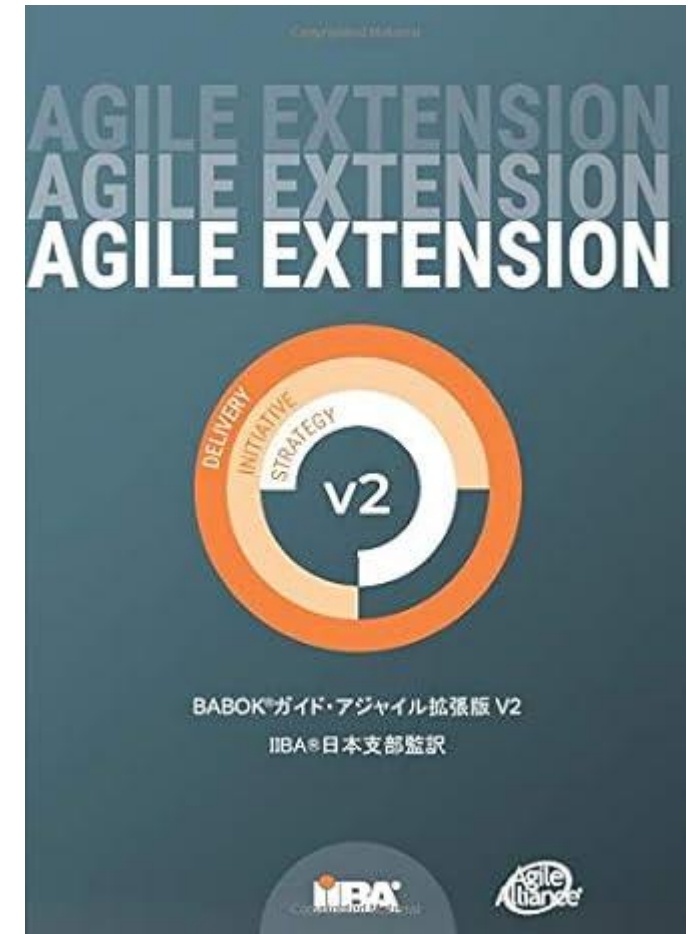
アジャイルビジネスアナリシスの実践

今回の取り組みでは、アジャイル・ビジネスアナリシスのための七つの原則のうち、特に「4例を使って真実を得る」「6.コラボレーションと継続的改善を促進する」の2つを効果的に行うことができた。

アジャイル・ビジネスアナリシスのための七つの原則

1. 全体を見る
2. 顧客として考える
3. 価値あるものは何かを決めるために分析する
- 4. 例を使って真実を得る**
5. 実行可能なものは何かを理解する
- 6. コラボレーションと継続的改善を促進する**
7. ムダを省く

「BABOK®ガイド・アジャイル拡張版 V2」より



4.例を使って真実を得る

1. オンラインホワイトボードツール(miro)を活用して実現イメージを共有

⇒関係者でソリューション案に対する合意形成を早急に行うことができた。

⇒ドキュメント作成の負荷を最小化することができた。

2.毎Sprintのスプリントレビューでできたところから確認

⇒実運用における懸念点の洗い出しや、通常とは異なるビジネスパターンを早期に引き出すことができた。

⇒PO側の要求分析作業を段階的に行うことができた。

6. コラボレーションと継続的改善を促進する

1. 毎Sprintごとにふりかえり+アジャイル勉強会を実施

⇒各タスクの背景にある考えについて話し合ったり過去の経験を共有したりしたことが、知識面の強化+チームの立ち上げ早期化にも効果大だった。

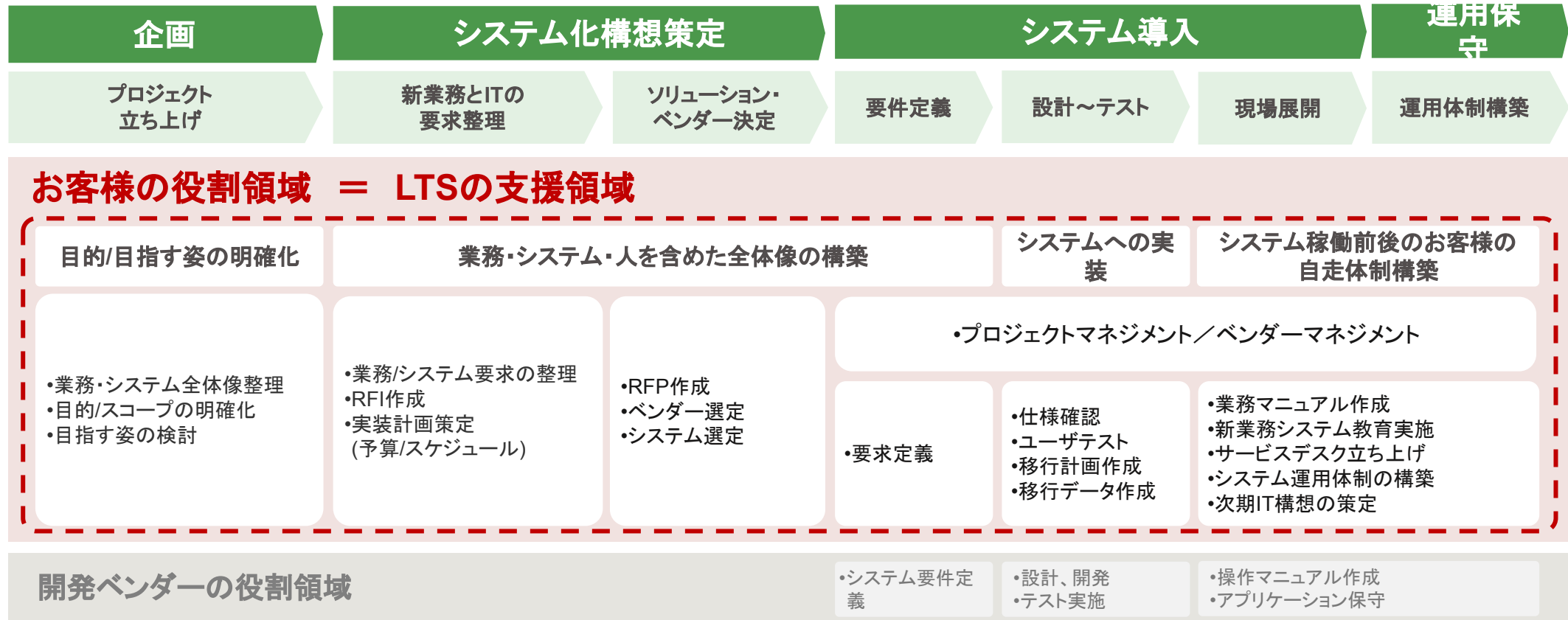
2. ビジネス価値に焦点を当て、機能要求の背景にある業務課題や想定利用シーンを含めてPOから開発チームへ共有

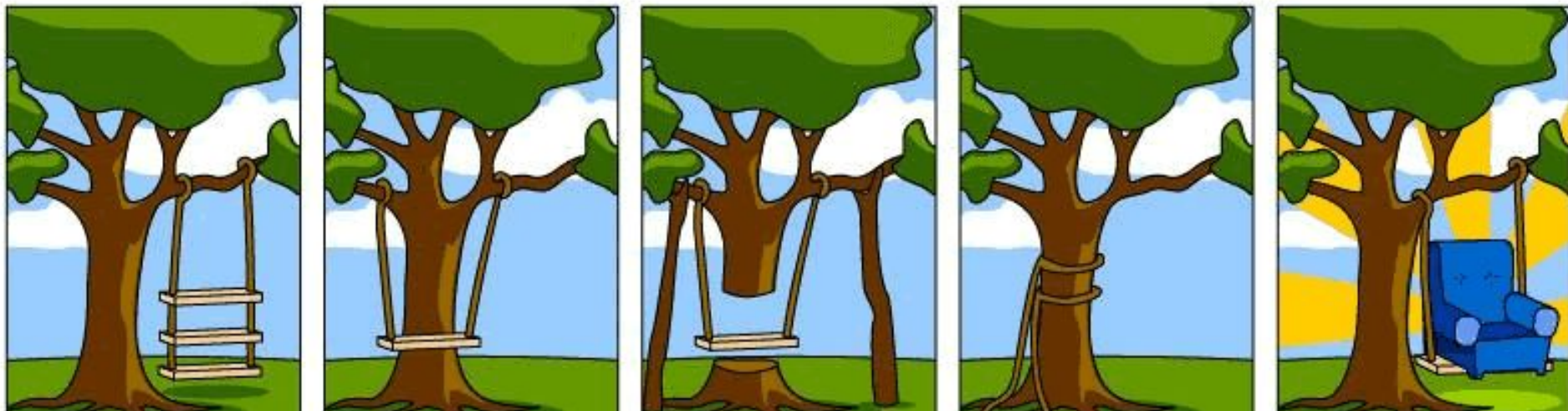
⇒開発チーム側からも提案を受けることができ、シンプルな実装で要件を満たすことで技術的負債をなるべく増やさないことにつながった。

私がアジャイルビジネスアナリシスに取り組む理由と今後の展望

私の日々の仕事

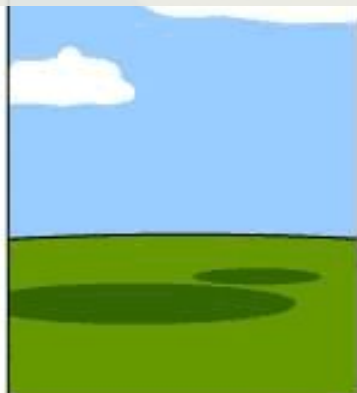
ビジネスアナリストとして、IT導入におけるユーザー側タスク全般を支援しています。



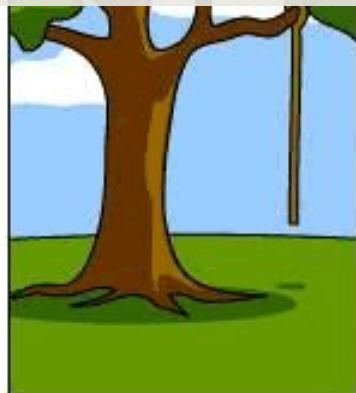


顧客が説明したニーズが、本当に必要だったものへの道は険しい...

への道は険しい...



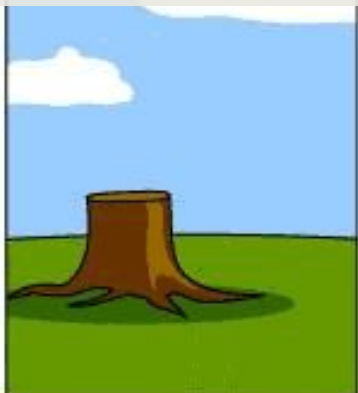
プロジェクトの書類



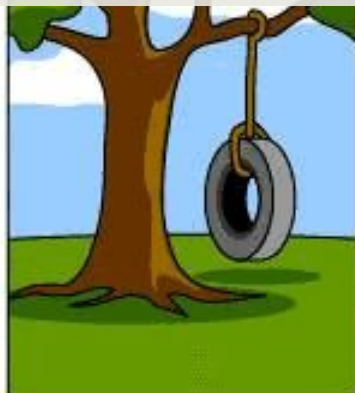
実装された運用



顧客への請求金額




得られたサポート



顧客が本当に必要
だった物

作ってもら側と 作る側の間には崖がある



“ビジネスアナリシス”と“アジャイル”が崖を
乗り越えるカギになる

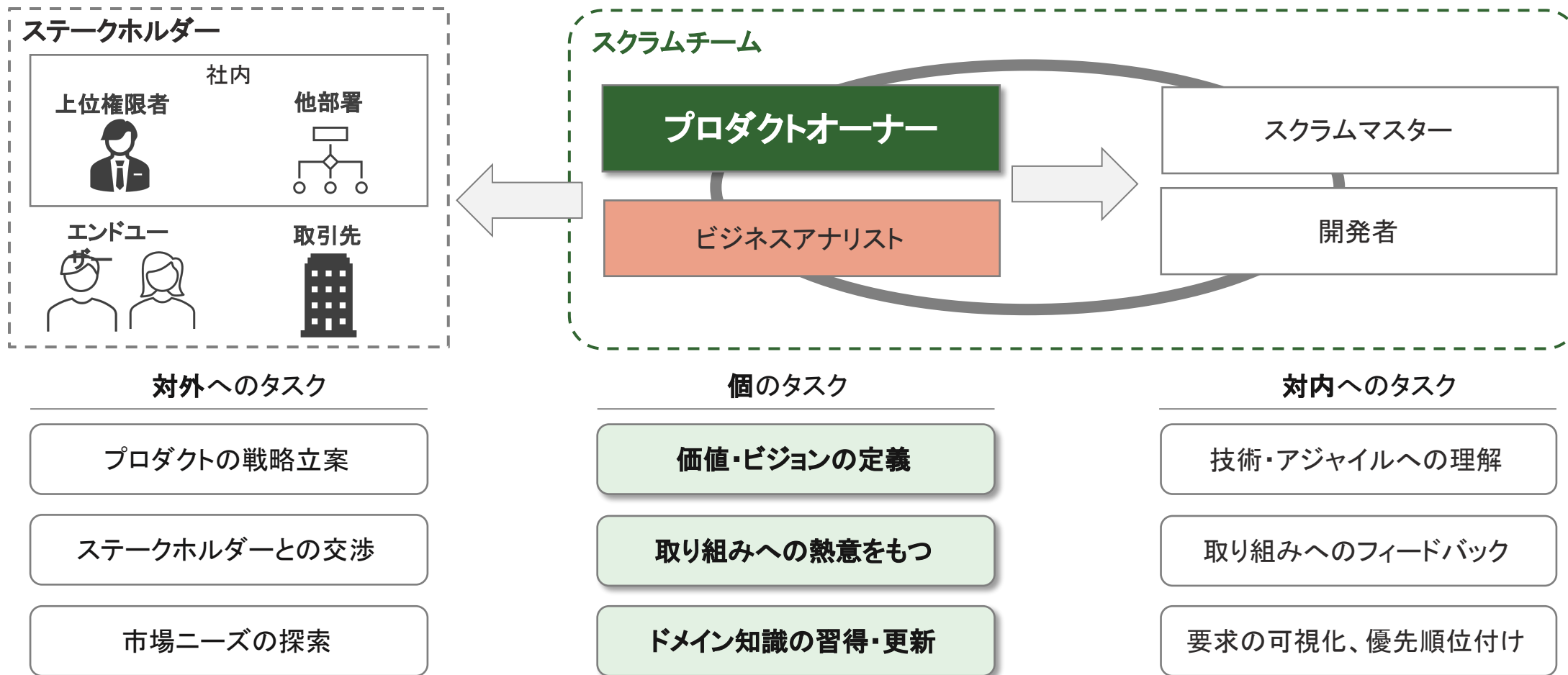
私とアジャイル&ビジネスアナリシスとの歩み

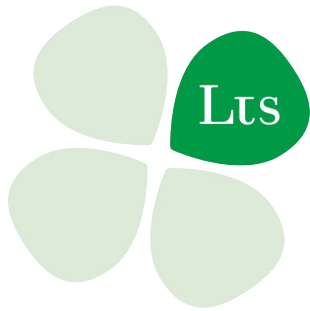
BAにはLTS入社時から接する機会があり、AGには担当プロジェクトで苦戦する中で出会った。

	経歴	ビジネスアナリシス (BA)	アジャイル (AG)
2016	<ul style="list-style-type: none"> LTS入社 ビジネスアナリストとしてIT導入PJにおけるユーザー側支援を担当 	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;"> ビジネスプロセスマネジメント概論を学ぶ (新卒研修) </div>	
2017		<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;"> 先輩ビジネスアナリストたちの書籍・コラムを読んで育つ </div>	
2018	<ul style="list-style-type: none"> 基幹システム刷新PJにてトラブル対応、運用安定化支援 	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;"> IRMUKに参加 世界のBA事情を知る </div>	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;"> PJで苦戦する中、“アジャイル“に出会う </div>
2019			<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;"> アジャイル関連コラム執筆 & 発信 </div>
2020			
2021	<ul style="list-style-type: none"> 社内のアジャイルプロジェクトで声をかけてもらう 	本格的にアジャイルビジネスアナリシスに挑戦 ★ BA賞での紹介事例	
2022	<ul style="list-style-type: none"> 外部顧客向けにアジャイル・ビジネスアナリシス・ローコードをテーマにPJ支援 	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;"> ECBA取得 </div>	<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;"> 顧客向けにアジャイル×ローコードの支援サービスを実施 ビジネスアナリストとして参画 </div>
2023		<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;"> BA賞2023受賞 </div>	

今後の展望

アジャイルの現場で感じるのは、POに求められる役割が非常に重要ながらその役割をひとりのPOが持つのは非常に困難であるということ。アジャイルBAとして貢献できる領域を増やしていきたい。





End of File